

学部 / 看護専門領域 / 看護の発展 科目コード：120506 緩和ケア論 Palliative Care					
担当教員	牧野 智恵				
実務経験					
開講年次	4年次後期	単位数	1	授業形態	講義（・演習）
必修・選択	選択	時間数	15		
Keywords	緩和ケア、倫理問題、終末期看護				
学習目的・目標	【学習目的】 主ががん患者への全人的痛みとその家族の苦悩を理解し、緩和ケアの基本について考える。 【目標】 1. 緩和ケアおよびターミナル期ケアの歴史、理念、倫理的問題について述べるができる。 2. がんターミナル期において患者やその家族がどのような心理プロセスを抱くのか理解できる。 3. 全人的痛みとはどのような状況にあることかについて理解し、どのような看護的介入が必要であるかについて自らの意見を述べるができる。				
授業計画・内容					
回	内容				
1	倫理的問題：「真実を伝える」「意志決定」「セデーション」における看護師の役割および倫理的問題				
2	『死ぬ瞬間』を読み進める中で、疑問点を互いに話し合いながら患者およびその家族の苦痛を理解し、その看護を検討していく方法をとる。 『死ぬ瞬間』はしがき～P.23:「死の恐怖について」				
3	『死ぬ瞬間』「死とその過程に対する様々な姿勢」				
4	『死ぬ瞬間』「受容」「希望」				
5	『死ぬ瞬間』「患者の家族」				
6	『死ぬ瞬間』「末期患者の精神療法」				
7	緩和ケアにおけるチーム医療，在宅緩和ケアの実際				
8	まとめ				
教科書	『死ぬ瞬間』キューブラーロス著、鈴木晶訳：読売新聞社				
参考図書等	『緩和ケア』恒藤暁・内布敦子編集、医学書院、2010				
評価指標	毎回のレポートの内容から総合的に判断（100％）				
関連科目	成人看護学概論、成人看護方法論Ⅱ、成人看護学実習B				
教員から学生へのメッセージ	緩和ケアを理解し考えていくことは、緩和ケア実践のみならずさまざまな人との関わりに 役立つことでしょう。				